

①残食量調査

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	10日間 計	平均
全体量	6/14.12/6	6/15/.12/7	6/16/.12/1	6/17.12/13	6/18.12/2	6/21.11/29	6/22.12/14	6/23.12/8	6/24.12/9	6/25.12/10		
6月	20.40	25.80	17.10	18.55	21.40	21.35	11.65	14.65	21.75	10.30	182.95	18.30
12月	18.85	17.55	13.05	12.85	14.60	17.70	12.00	14.65	21.85	9.55	152.65	15.27

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	10日間 計	平均
小学部												
6月	6.75	8.90	8.90	8.65	9.10	8.70	4.85	7.25	7.85	5.80	76.75	7.68
12月	6.90	6.95	5.75	3.30	4.80	7.80	4.30	6.25	7.10	3.90	57.05	5.71

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	10日間 計	平均
中学部												
6月	4.20	5.00	2.45	2.55	4.30	4.85	1.90	2.40	4.20	1.50	33.35	3.34
12月	3.10	2.15	2.10	1.95	2.85	2.85	1.70	2.75	3.35	1.80	24.60	2.46

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	10日間 計	平均
高等部												
6月	9.45	11.90	5.75	7.35	8.00	7.80	4.90	5.00	9.70	3.00	72.85	7.29
12月	8.85	8.45	5.20	7.60	6.95	7.05	6.00	5.65	11.40	3.85	71.00	7.10

- (結果) ●比較実施日10日の内、6月よりも12月の方が廃棄量が少なかった日が7日間、多くなった日が2日間、全く同じであった日が1日であった。
 一日平均の値を出してみたところ、全体で3kgも減少していた。
 ●各学部別比較では、小学部・中学部・高等部いずれも12月の廃棄量の方が減少している。
 高等部において、牛乳の廃棄数が12月に大幅に増えた理由は、急な現場体験実習の実施により、欠席者が多かったためと考えられる。
 ●全体的にみると、廃棄されていた食材は、ご飯やパン、牛乳が多く、おかずの残りは殆ど無かった。

- (考察) ●本校の給食の主食は計量配膳である。米飯でいうと、小学部低学年130g、高学年160g、中学部以上180gと秤を使用して盛り付けている。
 おかわりの制度も無く、量の増減などの個々に応じた対応は給食厨房内ではしていない。
 児童生徒により運動量の個人差が大きい、個々の対応が求められるが、その対応は各クラスの担任が、主食や牛乳で調整しているためその分が廃棄に出ていることがわかった。
 ●10月の身体測定の結果を4月と比較すると、身長も体重も全体的に成長し、給与エネルギー目標量が増えている。
 食べにくかった食材に関しても、少しずつ食べられるようになってきた児童生徒が多い。
 個々の心身の成長と共に、食品ロス、給食を残さず食べようという意識を強く持つことが出来たことが、今回の調査結果に顕著に現れている。

②野菜の廃棄量調査

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	10日間 計	平均
下処理												
6月	8.00	6.25	4.50	3.35	3.80	6.70	6.55	7.55	5.20	10.25	62.15	6.22
12月	7.17	3.98	4.45	5.35	4.70	5.75	6.00	6.20	3.75	6.45	53.80	5.38

- (結果) ●比較実施日10日の内、6月よりも12月の方が廃棄量が少なかった日が8日間、多くなった日が2日であった。
 この多くなった一日(D)は、6月の際は夏野菜のきゅうり、12月は冬野菜の白菜 と使用した食材が異なるため、正確なものではない。
 ●一日平均では、800gほど減少している。
 ●全体的に計算上の数値よりも少ない廃棄率となった。

- (考察) ●廃棄量の計測をすることを給食調理員が意識し、その意識が半年間の間でより強固なものとなり、野菜の下処理の際にできる廃棄を少なくすることが定着できた。
 ●一食の栄養量への影響はさほど大きいものではないが、食品ロスの観点からも野菜の処理を大切に、丁寧に考えていく必要があると感じた。